子宮内細菌叢検査2（子宮内フローラ検査）

先進医療　自費診療
子宮の着床条件についての検査

子宮内フローラ

フローラ(flora)とは“お花畑”という意味です。私たちの腸や皮膚にはたくさんの菌が生息しており、電子顕微鏡を通して見るとまるでお花畑のように見えることから「腸内フロー(腸内細菌叢)」などと呼ばれるようになりました。

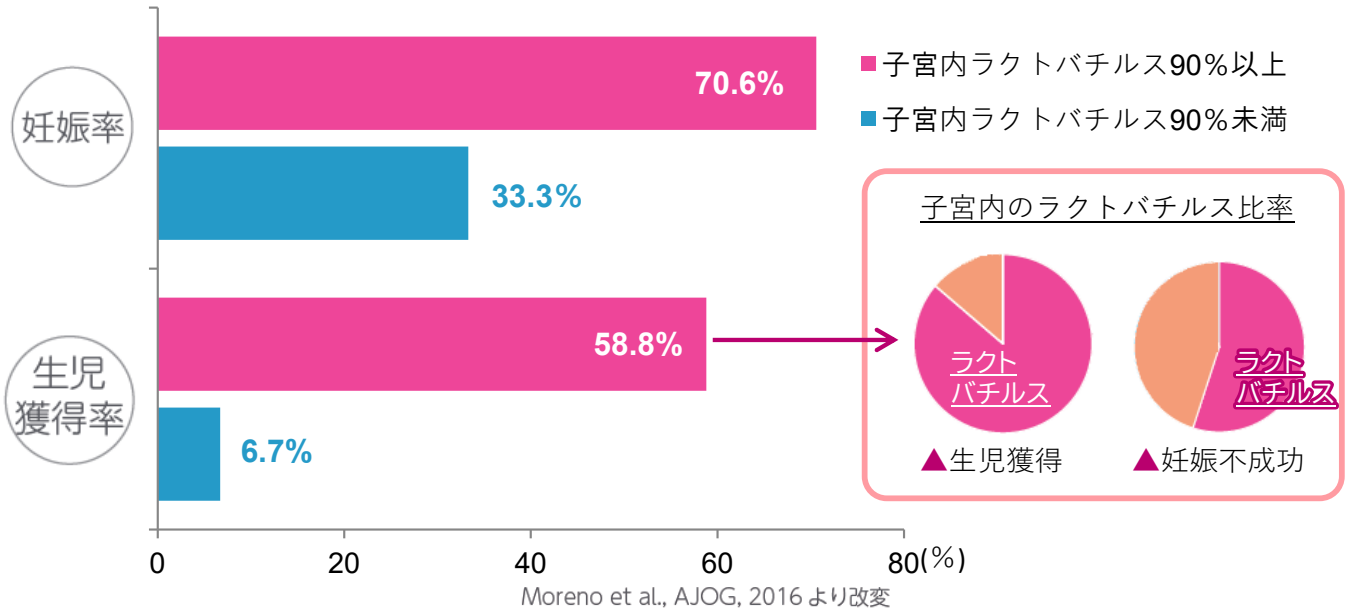
子宮内フローラ…従来無菌とされていた子宮内にも様々な菌がフローラを形成しており、そのバランスが妊娠率へ影響を与えることが分かっています。
子宮内に多く生息する**ラクトバチルス**などの善玉菌の量が多ければ雑菌や病原体を抑え込むことができ、着床率が高まる可能性があると言われています。逆に少なければ流産・早産のリスクが高まるとされています。

子宮内フローラと妊娠率の関係

海外における研究　スペインのIVI Valencia クリニックにて

体外受精を実施している35人の女性を対象に子宮内フローラを調べたところ、子宮内ラクトバチルスが90%以上の女性において、妊娠率や生児獲得率が高いことが報告されています。

子宮内のラクトバチルス(善玉菌)の比率と妊娠率・生児獲得率の関係



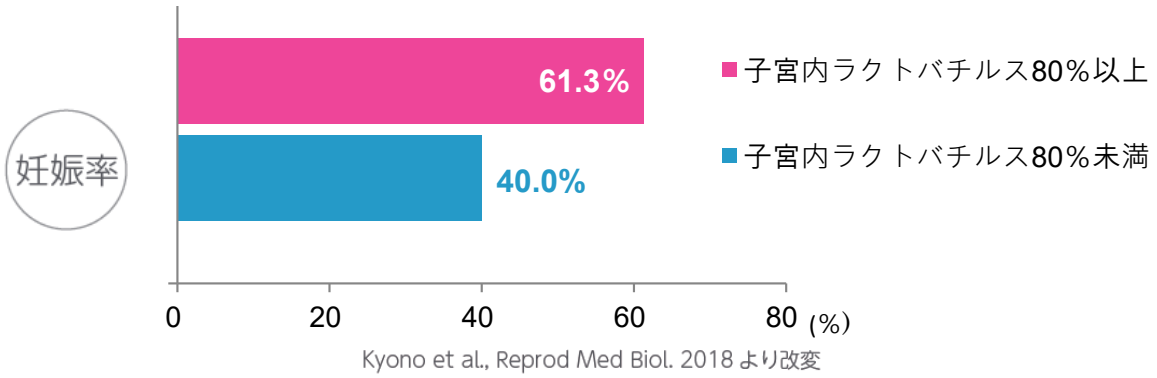
Moreno et al., AJOG, 2016 より改変

子宮内細菌叢検査２（子宮内フローラ検査）

国内における研究 京野アートクリニック高輪・理事長 京野廣一先生らによる研究

不妊治療を行っている92人の女性を対象に子宮内フローラと胚移植の成功率を調べた結果、日本人女性においても、子宮内ラクトバチルスが80% 以上の女性では、妊娠率が有意に高いことが明らかとなりました。

子宮内のラクトバチルス(善玉菌)の比率と妊娠率・生児獲得率の関係



Kyono et al., Reprod Med Biol. 2018 より改変

（検査会社URL https://www.varinos.com/services）

検査でわかること

この検査では**次世代シーケンサー**という最新の機器を用いて、すべての菌のDNAを解析することで、 子宮内に「何の菌」が「どのくらいの割合でいる」のかを知ることができます。

子宮内フローラの状況を正確に知ることで、より適切な治療を行うことができます

- 子宮内の環境をよりよくするため、具体的な対策が見つかる場合がある
- 子宮内が人工授精に適切な環境か調べる
- 原因不明の不妊の原因が見つかる可能性がある
- 流産・早産の原因ともなる感染症の有無を調べる
- 子宮内の状態を調べ胚移植への判断材料の一つとすることができる
- 胚移植をしても不成功を繰り返している場合、対策が見つかる場合がある…など

検査内容

子宮内膜から採取した組織で検査します。専用の採取する小さな器具を子宮内に入れて組織を採取します。短時間で終わりますが、痛みを伴います。

3～４週間後に結果が分かります。

費 用	先進医療	¥50,000-	先進医療のため非課税
	自 費	¥55,000-(税込)	

治療・処方について 改善のための治療

1	サプリメント…個人でweb購入	ラクトフェリン プロバイオティクス	BABY & ME
2	抗菌剤（菌にあわせて）内服	薬局処方（保険）	
3	レベニン（乳酸菌製剤）内服	薬局処方(自費)　30日分￥2,640-（処方料別）	